■第４章―概説その１■

724 年、聖武天皇が即位しました。

726 年には、藤原宇合（うまかい）を知造難波宮事（ちぞうなにわぐうじ）に任命し、686 年に火事で焼失した難波宮の再興を開始しました。

732 年に、宇合らが褒章を受けていることから、この頃には造営がひと段落したとみられます。

聖武天皇の「天平」の御代は、令和の日本と同じように社会不安の多い時代でした。

734 年の大地震を皮切りに、飢饉（ききん）や疫病といった災難が次々と日本を襲いました。

聖武天皇は、未曾有の疫病流行がピークを過ぎた天平 10 年頃から、地方行政組織の簡素化、公民負担の軽減、そして、国力回復の要となる墾田永年私財法（こんでんえいねんしざいほう）の制定といった社会復興政策を推し進めました。